

「全力」の振り返り

E S 君



僕は幼稚部3歳からこの学校にいるから、これまで14回運動会をしてきた。今年は15回目で最後になる。寂しいと思っていた。ダンスは最初センターをやると決まって嫌だったが、何回も練習して踊れるようになってからは、楽しくなった。自分でも上手に踊れていると思った。

当日、踊っている時、楽しい気持ちになった。

後から、お母さんが泣いていたと聞いてびっくりした。

でも、悪くないなと思った。

15回目の運動会。来年はもうない。今は寂しいという気持ちが少しあるけれど、自分で頑張ったから、最後としては良かったのかなと思う。

S Y さん



一生懸命考えた意見。時に涙した話し合いや練習。仲間とも悪戦苦闘しながらも楽しく作った赤龍のロンちゃん。練習でうまくできた時や龍が完成した時の喜び・・・。

テントに戻った瞬間、その思い出が蘇り、己の無力さが悔しくなった。みんなを勝利に導けなかった。涙が溢れた。

すると、闘う相手、白組の後輩達が私の元に来て、「とっても面白かったよ！すごかったよ！お疲れ様！」

と言って肩を抱いてくれた。涙で顔がぐちゃぐちゃになっていた私は、その言葉で思い出した。

そうだった。応援合戦で言った「紅白共に後悔のない運動会にしたい！」だ。そうだ。「組」じゃない。「みんな」でやるんだ。

S R さん



応援合戦は、紅組に勝ちたいのに自分のせいで勝てないかもしれないと思うと辛かったです。でも、みんなが教えてくれたり、自分も練習したりしていくうちに、覚えることができるようになりました。

そして、本番。

大きな声を出して踊りを一生懸命踊りました。緊張したけれど、絶対勝つぞという気持ちは強かったです。

最後の運動会。

嬉しかったり悔しかったりいろいろなことを思いました。でも、みんなのお陰で楽しくいい思い出になりました。みんなに感謝しています。ありがとう。

H K 君



僕の運動会は、そこで終わりではなかった。閉会式に移り、結果発表。結果は紅組の勝ち、白組は負けた。

けれど、悔しさよりも達成感の方が強かった。そして、生徒代表挨拶。リレーが終わったばかりで息が苦しかったが、生徒会長だからという思いがあったからこそ、最後まで言い切ることができた。

最後の運動会。

今、思えば、高1の時はこの運動会を物足りなく感じていた。その時の自分を思うと変わったなと思う。最後の運動会、本気を出して締めることができた。

高1の時の自分に、もし、会えることができたなら、

「オマエ、本気出したんだで」

って言ってやりたい。

////////////////////////////////////

高3、4人の運動会の作文。静かな感動に徐々に包まれました。

E君がセンターになったのは、E君は青薈が長いからセンターがいいと生徒達が決めたからだそうです。そういう気持ちが、この運動会をだだの運動会ではないものにしてくれたのだと思います。

君たちは、どうして全力で運動会に向かっていったのですか？

最後だから？

それだけじゃないよね。

「壁」を乗り越える苦しさや辛さや、思うようにいかないいだちや、徐々にできあがって協力し合って皆が一つになっていく過程や、勝った喜びや負けた悔しさや、でも、勝ち負けじゃない、自分の中に確実に残るものを得てほしくて、ちょうど20年前に紅白応援合戦を始めました。当時、生徒に「鬼」と呼ばれていた私は、話し合いに一切口を挟みませんでした。アドバイスもしませんでした。いるだけです。他の組の担当にもそう依頼しました。

お客さんに見せるものなので、それに耐えうる演技なのかどうか計るためにテストをしていました。一回で合格にはもちろんしません。生徒は必死です。不合格の理由を述べると、それこそ、一致団結して乗り越えようと一つの生き物になったように練習に取り組みます。

※今はテストはしていません。担当職員も参画して創りあげています。

みんなのために、休日全員分の衣装を作ってくる生徒。

寄宿舎で自主練に励む生徒。

話し合いが決裂して、舎に帰ってしまった生徒を追いかけて、組全員が泣きながら話し合った日。

運動会が終わって、1人グラウンドで泣いていたリーダー。

リーダー一人が頑張って任せっきりになっていたことを謝り、皆の心が一つになった日

いろいろなドラマが20年間の間に生まれました。

生徒の負担になるからという理由で、大人になっていく経験をこれからも奪わないでほしいと願います。

4人の作文は、苦労がなければ生まれなかったのですから・・・。